



## 1つの都市を24時間で —ロジャー・フェデラー と東京—

経済学部 塚本 恭章

スイス人のロジャー・フェデラー (Roger Federer, 1981-) は、男子テニス界の超一流選手でした<sup>1)</sup>。昨年2022年に41歳で現役引退しましたが、YouTubeでフェデラーのプレーがいつでもどこでもみられる21世紀、人々の「記憶」のなかではいまだに彼は「現役」選手のままでしょう。

フェデラーは日本人にはお馴染みのユニクロと2018年に新たに長期大型契約をし、日本との関わりが以前より深くなってきています。この文章は、「24 Hours with Roger (1つの都市を24時間で)」というコンセプトで、ユニクロから動画配信されたものの紹介がメインです。

テニスの四大大会グランドスラム (全豪、全仏、ウィンブルドン、全米OP) の開催地メルボルン、パリ、ロンドン、ニューヨークといった国際都市に先駆けて、フェデラーの「最初の訪問地」となったのが「東京」です。フェデラーは、東京の〈魅力〉というものをどう語っているのでしょうか。そこには、われわれ日本人ですら知らない「日本」があるようです。フェデラーの1日のスケジュールは以下のとおり (動画配信に記載の文章からの引用です)<sup>2)</sup>。

9:00 AM Once around the Palace

ロジャーは、旧友で同じ元プロテニス選手の伊達公子さんと合流し、その美しさと静謐さからランナーに人気のある、壮大な「皇居」の周りを走りました。東京の真ん中にある、見事な史跡です。

11:00 AM All is fine at the Shrine

コート上では何度もロジャーと対面してきた錦織圭さん。今日はロジャーを連れて、徳川家康公を祀るために1627年に創建された「上野東照宮」へ。一緒に瞑想のひとつときを体験します。圭さんはロジャーに参拝方法を教え、この素晴らしい建造物の見どころを案内します。



上野東照宮でのフェデラー

3:00 PM Visiting Nanzuka Underground

現代美術ファンのロジャーは、ギャラリスト南塚真史氏が開いた「NANZUKA UNDERGROUND」へ。そこでアーティストの田名網敬一氏と出会い、鮮やかな色彩に満ちた彼の個展「A Mirror of the World」を鑑賞。常に好奇心旺盛なロジャーは、田名網氏に彼の作品やインスピレーションについて話を聞きます。

1) スイスのパーゼル出身の元プロテニス選手で、史上最高 (Greatest of All Times) の選手の一人。グランドスラム20回の優勝 (全豪6、全仏1、ウィンブルドン8、全米5) を誇る。ウィンブルドン優勝8回、グランドスラムでのマッチ勝利数369勝は現在、歴代最多記録。ラファエル・ナダル、ノバク・ジョコビッチ、アンディ・マレーとともに「ビッグ4」と称され、男子テニス界を長らく牽引してきました。美しく流麗なプレースタイルでファンを魅了し続けてきたレジェンドは、引退後の今も絶大な人気を勝ち得ています。

2) 本原稿で使用している3枚の写真はユニクロ動画からの転載です。詳しくは、以下に記載するユニクロのスペシャルサイトをぜひご覧ください。  
<https://www.uniqlo.com/jp/ja/contents/feature/24hourswithRoger/>

5:00 PM We're All about Transparency

THE TOKYO TOILET プロジェクトの一環として、プリツカー賞を受賞した建築家の坂茂氏が設計したのが「トウメイ トイレット」。透明であることが清潔さや安全性を表すとともに、人々の本能的な慎ましさに訴えかけます。このような革新的なトイレが、渋谷区内17か所に設置されています。



東京の景観を車窓から

6:00 PM A Visit to Nonbei Yoko-cho

ロジャーは伊達公子さんと錦織圭さんに連れられて、風情ある路地裏の「のんべえ横丁」にある居酒屋へ。「なだー」は何世代にもわたり、国際色豊かなお客さんのお腹を満たしてきました。伊達さんや錦織さん、現地のお客さんと一緒に、店名物のおでんを味わいます。



のんべえ横丁でのフェデラー

8:00 PM A Time to Savor The SG Clubの2階にある隠れ家バー「Savor」でくつろぐロジャー。バーテンダーは、かの有名なミクソロジストで、SGクラブの仕掛け人でもある後閑信吾氏です。彼はロジャーのために、おすすめの一杯を作りながら、レシピの秘密も少しだけ教えて

くれました。

フェデラーが宿泊したホテルは、港区虎ノ門の東京エディション。起床は7:00 AM。1日のスタートはそこから皇居の千代田区、上野東照宮の台東区、それ以降の訪問地はすべて渋谷区です。こうしてフェデラーの1日の東京訪問・体験スケジュールを眺めてみると、国際都市・東京に力強く存在し続けるダイバーシティとダイナミズムが、多方面・多分野一居住空間、伝統建築、現代アート、トイレット革新、ユニークさとおもてなしの食文化、カクテルのアーティストなどで鮮やかに浮かびあがってきます。「東京が好きな理由のひとつは、古代と現代が独創的に融合しているところですよ」とフェデラー。上野東照宮の瞑想空間で、フェデラーは「日本の国民的英雄であるケイと一緒にここにいる」といっています。超一流のフェデラーが称するからこそ、Kei Nishikoriという日本人テニス選手の偉大さと彼への敬意を、「日本人」であるわれわれにより強く実感させてくれるのです。

フェデラーはいつも動画の最後で、「僕と一緒に世界を旅しませんか?」といっています。ユニクロが配信したこの動画を何度も視聴していると、このスケジュールにそって自分も本当に「体験」したくなるのです。ユニクロを着こなすフェデラーの温厚でフレンドリーな人柄が滲み出た東京満喫の旅。この動画は、まさにこれからよりいっそう〈世界で知られてほしい「日本」と「東京」〉の息遣いというものを凝縮的に象徴しているかのようです。フェデラーという「世界」が開いてくれた「日本」への〈新たな扉〉であるといってもよいでしょう。日本そして東京をこよなく愛してくれて、ありがとうロジャー。で、今度はいつ来てくれるのかな?